

町政を問う。

3人の議員が一般質問

狩野 正雄議員

水資源の確保と水源周辺の土地利用について



加納 茂議員

原発停止による節電の要請、町の対応は？



飯沼 新吾議員

今後の然別川を活かした町づくりについて



住民生活

Q 水資源の保全

A 必要な措置を行う



狩野正雄議員

(質問) 全ての生命の源である水は、私たちが安全で安心な生活を営み農業や観光などの産業が健全に発展していく大切な資源である。

道の制定した「北海道水資源保全条例」は地域の特性により推進すると

されている。町の簡易水道の水源地は地下水を利用しているが、近年山林が伐採され

たまま原野状態の土地が多く見受けられる。森林の減少は保水力や水質などへの影響もある。更に、水源周辺の土地が外国資本により目的不明の売買もあると聞く。

(答弁) 吉田町長 道内における海外資本等の取得状況は。海外資本による大規模な森林の取得状況は

1千39ヘクタールで中国、イギリス、マレーシア等による取得で、目的は資産保有や販売を目的としている。

(質問) 原野となっている土地に対して、水源かん養保安林制度の活用は。

(答弁) 吉田町長 水源かん養保安林には雨水を蓄え、ゆつくりと川に流すことで洪水や濁水を防止する働きがあります。100ヘクタール以上の流域指定で木が植生していないと出来ない。

(質問) 道と連携して取水地周辺を水資源保全地域に指

定し土地を確保する考えは。

(答弁) 吉田町長 簡易水道及び営農用水道の条例による取水地周辺の水資源保全地域指定は必要一部指定は道に提案している。土地の確保が必要なら町が取得することも検討したい。

(質問) 原野状態の土地が町内どのくらいあるか調査して把握する事も必要ではないか。

(答弁) 桜庭農業者協議員 農業委員会が畑に隣接している山林原野の確認調査を進めている。



水源かん養保安林トウマベツ林道周辺

住民生活

Q 節電対策は

A 計画停電に対応出来るよう進める



加納 茂議員

(質問) 3・11の事故以来、国内すべての原発が停止しており電力不足が懸念されている。本町での7%の節電目標達成が可能な疑問に感ずる。公共施設・各家庭での節電の方法と周知の対応は。



役場庁舎の節電の取り組み

(答弁) 吉田町長 庁舎内での節電、計画停電に対応出来るよう、サマータム(朝7時30分)約半数の職員も取り入れ大きな支障のないよう進めていく。新たなエネルギーの創出を行い、エネルギーの地産地消の町づくりを進めたい。

(質問) 今年以降の節電も考えなければならぬ。発電機の対応を考える必要があるのでは。

(答弁) 吉田町長 あらゆる電気器具を止めて生活レベルを下げる

ば7%の節電目標達成可能だが経済の状況を維持することも出来ない。国策として新しい電力をつくる必要がある。

今の鹿追のバイオガスパラントの発電は3百kw、90%位で動いている。これから計画しているプラントは1メガワット(1千kw)の出力を持つ発電機を設置したい。

環境問題・エネルギーの創出・消化液の肥料もある。におい対策にもなる。発電電分離によって、地方で起きた電力は地方で使える考え方も必要となる。

町づくり

Q 然別川の活用

A 必要な対応を考える



飯沼新吾議員

(質問) 然別川は昭和56年の台風12号の災害があり、膨大な費用と時間をかけ修復をした。災害から守ることが出来る川となったが、コンクリートづくめになり、自然が無くなってしまった。その後、町民の協力、町・道の事業により憩いの川としてよみがえってきた。

①今後の然別川を生かしたまちづくりは、
②鮭の稚魚の放流は、
③2度の清流日本一の看板設置は、以上3点についての考えは。



(答弁) 吉田町長 治水に取り組む一方、利水として今まで取り組んだことの継続のほか、全道一長い桜並木、化粧品柳の群生地、現在造成中の鹿追農芸公園整備と一体化した活用を検討する。また、笹川橋から鹿追橋までの堤防を一般車両が通行可能になるよう、管理者である北海道への要望を継続する。

鮭の稚魚の放流は、道の整備や他の魚種も含め、放流の自然体系への影響について関係機関と調査し検討する。清流日本一は検証が必要であり、看板設置についても、慎重に検討する。

(質問) 然別川の活用に関する検討委員会などの設置の考えは。

(答弁) 吉田町長 総合的に然別川の活用を検討する必要性からも、団体の立ち上げに関しては十二分検討する。